



安野モヨコ 瀧澤龍彦『バビロンの架空園』装画 2017年 ©Moyoko Anno / Cork

館長の作家対談
亀山郁夫(ロシア文学者)

2019年度の活動から
2020年度の企画展

安野モヨコ展 ANNORMAL

4月25日(土)～6月28日(日) 2階展示室

ふるえる程のしあわせが欲しい
それはどこにあるのかしら？

——『ハッピー・マニア』

デビュー30周年を迎えた漫画家・安野モヨコ(1971～)。

高校3年生でデビューした安野モヨコは、1995年に連載を開始した『ハッピー・マニア』で一躍人気漫画家となります。「ふるえる程のしあわせ」を求めて様々な男との出会いと別れを繰り返す主人公・重田加代子(通称・シゲカヨ)の姿は多くの女性たちの共感を呼びました。その後、女性向け漫画誌にとどまらず、青年誌に『花とみつばち』『さくらん』『働きマン』、少女漫画誌に『シガシガールン』、さらに新聞紙上で連載開始された『オチピサン』など活躍のフィールドを果敢に広げ、幅広い読者層に漫画を届けてきました。男と女それぞれにとつての恋愛、あるいは社会



『後ハッピーマニア』2019年



『シガシガールン』2005年



『鼻下長騎士回顧録』2017年

人の現実と少女の空想世界といった、相反するテーマを描き分ける安野モヨコ。その振幅の大きい作品世界を本展では「女」「男」「荒」「和」「美」「醜」「夢」「現」などのテーマごとに紹介していきます。

作品の相次ぐドラマ・映画・アニメ化で人気に拍車がかかり、過労による体調不良を抱えながら多くの仕事をこなしていた安野モヨコは、2008年に『オチピサン』を除く連載の休業を発表。移り住んだ鎌倉で、四季の移ろいや失われゆく風景を紙版画の技法(ボンヨール)で『オチピサン』に描き続けるとともに、一枚絵のシリーズ制作や個展開催などを通じて、漫画以外の絵師



『働きマン』2007年

としての才能にも磨きをかけていきます。そして2013年、5年ぶりの復帰作として『鼻下長騎士回顧録』を発表。20世紀初頭のパリの娼館を舞台に、様々な変態的欲望を抱えた紳士たちと、そこで小説家として目覚めてゆく娼婦コレットの姿を描きました。さらに現在では、ファン待望の『ハッピー・マニア』の続編となる『後ハッピーマニア』の連載もスタートし、漫画家としての活動

を再び本格化させています。性別や年齢の枠を超えた様々な読者の心をとらえ、喜びと力を与える物語を創り出してきた安野モヨコ。その格闘の軌跡を500点に及ぶ作品原画を中心に見ていきます。普通でない(unnormale)、安野モヨコ(Anno)の「ANNORMAL」「アンノーマル」な作品世界をご堪能ください。



『オチピサン』2016年